令和２年６月 30 日

富 士 見 市 教 育 委 員 会
教育長　山口　武士　様

富士見市公民館運営審議会
議　長　　中　　正　　美

「動く公運審！～公民館カフェの実践～」（報告）

富士見市公民館運営審議会（以下、「公運審」という）では、平成 30 年度から令和元年度までの任期中の主要テーマとして「公民館カフェ」を取り上げました。各公民館における活動内容を取りまとめましたので、次のとおり報告いたします。

〈目次〉

１．はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

２．各公民館における公民館カフェの実践

（１）鶴瀬公民館・・・・・・・・・・・・・・・・・3

（２）南畑公民館・・・・・・・・・・・・・・・・・7

（３）水谷公民館・・・・・・・・・・・・・・・・・11

（４）水谷東公民館・・・・・・・・・・・・・・・・13

３．まとめ　公民館カフェの可能性・・・・・・・・・・17

１．はじめに

「公民館利用者の高齢化」や「若い世代の利用者を増やすためには」といった話題が、富士見市公民館運営審議会の中で折に触れて出されていました。公民館における共通課題のひとつです。このような話題を踏まえて、平成30年度から令和元年度、富士見市公運審の主要テーマは「動く公運審！～公民館カフェの実践～」となりました。

以前から水谷公民館で実験的に取組まれてきていた「コウミンカンカフェ」が公運審で話題となり、平成29年度に南畑公民館の中正美委員から、水谷公民館の関根健一委員へ「なんばた青空市場でカフェ出店したいので、ぜひ協力してほしい」との提案がありました。当日は、鶴瀬や水谷東の地区委員の協力もあり、「公運審カフェ」として出店することができました。籾殻（もみがら）が敷き詰められた田んぼの一角に、本格的なコーヒーの香りが漂い、好評をいただきました。この出店を皮切りに、平成30年度から、「今度は各公民館でカフェを実践してみよう」ということで、水谷東、鶴瀬と公民館カフェの取り組みが広がっていきました。

なんばた青空市場にて

この報告書は、各公民館での「公民館カフェ」の実践記録です。それぞれが地域性や施設機能を活かし、様々な工夫を凝らして取り組んできました。今後も公運審は公民館と一体となり、「敷居を低くする」取り組みを推進したいと考えています。

２．各公民館における「公民館カフェ」の実践

（１）鶴瀬公民館

公民館・事業名	鶴瀬公民館「公民館カフェ」
主催・協力	鶴瀬地区公民館運営審議会・鶴瀬公民館 協力：鶴瀬公民館利用者連合会

概要

第１回　日時：令和元年７月５日（金）9:30～13:00
会場：鶴瀬公民館ロビー・いきいき活動室
実績：コーヒー75 杯分、原則無料（5,573 円のカンパ）

特徴：初の試みとして、子育て支援事業「親子はーとふる time」に合わせて実施。事業参加者と当日の施設利用団体の参加を得た。公民館利用者連合会が公民館カフェの看板を作成してくださり、いきいき活動室では「鶴瀬公民館まつり」舞台発表記録 DVD を放映した。

第２回　日時：令和元年９月 13 日（金）9:30～12:30
会場：鶴瀬公民館ロビー・いきいき活動室
実績：コーヒー95 杯分、原則無料（4,772 円のカンパ）

特徴：前回同様、「親子はーとふる time」に合わせて実施。ロビーではクラシック音楽の CD を流し、いきいき活動室では、サークル HANA さんのご協力により、折り紙や押絵のワークショップを実施した。コーヒー、茶菓子に加え、ノンカフェインのルイボスティーも用意した。

第３回　日時：令和元年 12 月８日（日）12:30～17:00
会場：鶴瀬コミセンホールロビー
実績：コーヒー約 100 杯分、原則無料（5,305 円のカンパ）

特徴：今回は、生涯学習課からの依頼もあり、ホールで開催された「郷土芸能公演会」に連携協力する形で実施した。普段、公民館を利用していない市民にも周知するよい機会となった。

エプロン姿のスタッフ（7/17）

木印の会特製の看板（7/17）

公民館まつり DVD 放映（7/17）

親子はーとふる time（9/13）

エプロン姿も板に付いて（9/13）

郷土芸能公演会ポスター（12/8）

押絵のワークショップ（9/13）

関係者のコメント

＜伊垣 容子 公運審委員＞

7 月 5 日の第 1 回目は不安の中にスタートした。当日は親子の会があったため、若い母親たちに喜ばれ「いつもと違った雰囲気で話が弾んだ」と、嬉しい感想が聞けた。カフェで深まる地域の交流に一石投じたと思う。

回を重ね周知が上がれば、公民館と地域住民の交流の橋渡しとなり、公民館の核になると信じている。手作りのコーヒーで、公民館が多世代の交流、話題提供の場所造りとして、誰もが参加できる下地作りの第一歩は成功した。

地域の人たちが顔見知りとなり、それが地域の連帯に繋がるために、公民館カフェが参加者たちの力も借り、継続が必要と思う。これからも公運審が地域のつながり、多世代の交流の一助を担うことに期待が持てそうだ。

＜山川 亜紀子 公運審委員＞

公民館カフェを実践してみて一番に感じたこと。

それは、初めて会った人と笑顔で会話が出来るということです。

ネット社会の今、この場所には、本来の人と人との交流の在り方が感じられると思いました。

そのきっかけが、コーヒーであり、一緒に付随してくる音楽や、映像、ワークショップなどを通して、更に心が和み、心地の良い空間になっていると思います。

公民館には、沢山の利用者の方がいらっしゃいます。その方々の力を借りながら、気張らず、出来る範囲で、この公民館カフェを継続していくことが、大切なのではないでしょうか。そこから生まれる笑顔の先に、公民館で問われている様々な課題を解決する道があるのではないかと思います。

＜長ヶ原 美博 公運審委員＞

【豊かで小さな社会】創り

「少子・高齢化」「世代間差」「孤独化」等々の恒常的課題に加え、増えてきた「自然災害」への対応等課題も山積している。「地域の力＝人の繋がり」が必須である。地域力の向上の為に、公民館には「人・活動」を繋ぐ、「人・活動」を活かす役割が求められる。そのために、人々が相互に承認・信頼関係が結べる【豊かで小さな社会】作りが重要である。地域の【豊かで小さな社会】実現のために「公民館カフェ」に取り組んだ。多くの方々の①会場設営への協力　②わざわざの来館、また他の公民館活動の合間での声かけ　③旧知と声を掛け合い楽しそうなコーヒータイム等々確かな手応えを感じた。工夫を重ね、協力者を募りながら取り組んでいくことで目標に一歩ずつ近づくと信ずる。

＜神木 基晴 公運審委員＞

１．公民館カフェを始めるにあたって

未経験の４人の公運審でうまくやれるか、公民館カフェの反応・利用者はいるだろうか、カンパで経費が賄えるか等大きな不安はあったが、まずやってみようとスタートした。

２．公民館カフェを実施してみて

集会室利用者や子育てサロン参加の若いママにも好評で、予想を上回る杯数の注文があり楽しく公民館カフェを実施できた。カンパも経費を上回る集まり具合で財政的見通しがつけられた。

３．カフェの今後に向けて

定期的な開催により、公民館を利用してない人等も気軽に足を運べる機会となることが期待される。そのためには取組体制・協力者の確保がカギになると感じている。

＜小石 幸司 鶴瀬公民館利用者連合会会長＞

「公民館カフェ」開催の目的、ねらいとは何でしょうか。公民館利用者や地域の人々にアピールし、公民館活動の活性化を図る。公民館の「敷居を低くする取組み」とは何だろうと考えさせられました。利用者連合会役員とともに参加しての感想を述べたいと思います。

・掲示板にポスター掲示など、より本格的な宣伝が必要。
・会場の工夫（テーブル・椅子・BGM・飾り付け…）。
・実施日の固定、定例化
・やはりおいしいコーヒーは紙コップよりコーヒーカップがいいですね。

利用者連合会の中では「素晴らしい企画なので、今後も積極的に関わっていく」ことを確認しました。期待しています。

（２）南畑公民館

公民館・事業名	南畑公民館「南畑まち cafe」
主催・協力	南畑地域まちづくり協議会 協力：南畑地区公民館運営審議会・南畑公民館

概要

新旧住民の交流と親睦を目的に、これまで年 1 回、「もちつき交流会」を実施してきた南畑地域まちづくり協議会が、日常的な事業展開をめざし、千葉県木更津市内の公民館等で開催されてきた同様の事業を参考に実施したもの。物品類の購入等の準備は同協議会が行う。南畑地区公運審は協力する形で参加。当初、事業を広く認知されることを目的に、公民館事業開催日にあわせて実施。31 年 2 月より毎月第 3 木曜日の定例開催とした。(8 月はお休み)

日時

毎月第 3 木曜日　10：00～12：00（第 1・2 回は別曜日）

平成 30 年度……12/19（水）・1/15（火）・2/14（木）・3/14（木）

同 31（令和元）年度…4/18・5/16・6/20・7/18・9/19・10/17

11/21・12/19・1/16・2/20（各木）

※令和 2 年 3 月以降は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、休止中。

会場

南畑公民館ロビー・談話コーナー・図書コーナー（フリースペース）

提供物

コーヒー・パンケーキの提供

※このほか、季節に応じて自家製ミカンジュースやトマトジュース等、小さなお子さんやコーヒーが苦手な方むけの品物も用意し楽しんでいただく。

来場者数

当初はパンケーキ 100 食を提供し、ほぼ完食であった。定例開催となってからは、70～80 食を用意している。

ワークショップ

令和元年度は、cafe に付加価値的な催しとしてワークショップを開催。指導や公演役は地域の方を中心に無償で依頼。

①6/20　花モチーフ作り…小山由佳氏

②7/18　手作りアロマ消臭剤

③9/19　三味線演奏＆体験…吉川節男氏

④10/17　秋の折り紙…いいじまのり氏

⑤11/21　保健師さんに相談…健康増進センター保健師

⑥12/19　クリスマスピアノ演奏…坂間佐知子氏

⑦1/16　南京玉すだれ…役所玉二郎氏

トレードマークの黒エプロン姿

保冷剤を再利用した消臭剤（7/18）

きのこなどの秋の折り紙(10/17)

三味線演奏（9/19）

ロビーでのピアノ生演奏(12/19)

会場が盛り上がる南京玉すだれ（1/16）

関係者のコメント

＜中　正美 公運審委員＞

本事業の取り組みは、「公民館に行ってみようかな」「また来るよ」といった地域の皆さんが、心からつぶやきの声が聞こえるものであったならば、意味のあるものになっていると感じる。公民館利用者が趣味の愛好者、共通の目的を持った皆さんだけでなく、カフェ一杯のおもてなしを楽しんでいただけることができたなら、こんなうれしいことはないと思う。今後、この地道な活動から、世代を超えた「人と人との関わり」が生まれていただけることを期待している。

＜高橋 康子 公運審委員＞

定期的に開催していることにより、サークル活動以外の方も立ち寄ってくれています。平日の昼間ということもあり、小さなお子様連れの方やお年寄りのお客様が多く、毎回楽しみに公民館を訪れコーヒーやジュース、パンケーキを片手に地域の方々との交流・憩いの場として過ごしてもらい、笑顔で帰られるのがとても嬉しく思います。ワークショップとして体験や公演企画も取り入れ、カフェを楽しみながらの癒しの空間を引き続き提案していけたらと思います。

最近は活動休止しているが、公民館がいかに地域の方々との交流の場であったのかを、一住民としても改めて実感しています。復活後も全力でもてなしていきたいです。

＜横谷 希己江 公運審委員＞

地域には得意とすること、趣味を持っている人がたくさんいらっしゃる事、伝えられてきた伝統的な事等、高齢によって消えてしまわないうちに次世代につなげてほしいです。

今は、どこの子だろう？と思う事も多く、人と関わらないで済んでしまうけど、定期的に行われている「南畑まち cafe」は良い事業です。高齢者だけでなく、子育て世代の集まれる場所がある事はありがたい事だと思います。仕事の関係上、なかなか協力できず申し訳なく思っています。

＜松尾 信悟 公運審委員＞

地域住民が自由に参加できる公民館カフェは、多世代が交流できる場になっています。今後継続していくには、スタッフへの負担が増えるかもしれません。カフェの利用者がお客さんとして参加するだけでなく、運営や企画も手伝う人が増えるような仕組みを作りたいです。スタッフと利用者の垣根がなくなり、公民館カフェに関わる全ての人が楽しみながら続けられる事業になればと思います。

＜深野 富雄 南畑まちづくり協議会会長＞

南畑地域まちづくり協議会では、平成29年度の視察研修事業として、木更津市金田地区のまちづくり協議会で取り組んでいるコミュニティカフェを研修した。金田地区では南畑地区と同様に新住民が増加し、新旧住民交流をどのようにしたらよいか悩み、そんな中で公民館を利用したコミュニティカフェで地域交流の輪を広げ、愛着のある地域づくりを目指しているとのこと。南畑地域まちづくり協議会でも、金田地区のコミュニティカフェを参考に実施しました。

毎月第 3 木曜日の開催で、コーヒー豆も多彩に用意し、ホットケーキも焼いている。毎回80名以上の方々がお出でになり楽しまれている。公民館職員・公民館運営審議会委員の協力をいただき、ロビーの飾りつけや地元トマトの野菜ジュースの差し入れ等、感謝しています。

＜高野 敏行 南畑公民館利用者の会会長＞

早、「まち cafe」も 2 年もたった事、考えもせずにお手伝いできた事に、今、振り返れば、まちづくり協議会並びに公民館運営審議会の役員の方々の努力に感謝します。今後の「まち cafe」を続けるに当たり、スタッフの増員、資金・衛生面の見直しなど、課題が出てくると思いますが、皆様（お客様）方が喜んで頂ける場を提供できればうれしく思います。今後の希望ですが、たくさんの方々が公民館に来られてカフェを楽しめるように、日曜日開催ができればと思っております。

（３）水谷公民館

公民館・事業名	水谷公民館「コウミンカンカフェ」
主催	水谷地区公民館運営審議会・水谷公民館 ＫＴＴプロジェクト

概要

水谷公民館では、地域の新しい交流の場、若年層をはじめとする新規利用者の発掘、公民館のＰＲなどを目的に平成 30 年度から試行的に開始し、ニーズや効果の把握を行った。豆の選別から焙煎、ドリップに至るまで、関根委員こだわりの一杯を無料で提供する。同時に運営協力金としてカンパを募る。当初は公民館の利用者が中心であったが、令和元年度は運営スタイルが定着し、カフェを目的に来館する方も増えた。8 月 31 日にはカフェの発展形となる「コウミンカンビアガーデン」の開催にいたった。

また、11 月から 1 月にかけては親子をはじめとする市民と協働で公民館の庭の整備を行う「コウミンカンリノベーション」と併せて実施した。2 月 16 日には第 34 回地域・自治シンポジウムに併せて開催した「コウミンカンマーケット」に出店した。

〇平成 30 年度

6/24（日）10:00～13:00　調理実習室
7/22（日）10:00～13:00　調理実習室　※コーヒー淹れ方講習有
1/ 6（日）10:00～13:00　公民館ロビー
2/24（日）10:00～13:00　公民館ロビー
3/10（日）10:00～13:00　公民館ロビー　※コーヒー淹れ方講習有

〇令和元年度

4/13（土）10:00～13:00　公民館ロビー
5/12（日）10:00～13:00　公民館ロビー
6/ 2（日）10:00～13:00　公民館ロビー
7/ 7（日）10:00～13:00　公民館ロビー
9/29（日）10:00～13:00　公民館ロビー
11/ 3（日）10:00～13:00　なんばた青空市場
11/17（日）10:00～13:00　公民館ロビー　※コウミンカンリノベーション
12/15（日）10:00～13:00　公民館ロビー　※コウミンカンリノベーション
1/ 5（日）10:00～13:00　公民館ロビー　※ボードゲーム有
1/12（日）10:00～13:00　公民館ロビー　※コウミンカンリノベーション
2/16（日）10:00～13:00　公民館ロビー　※コウミンカンマーケット

コウミンカンカフェポスター

記念すべき第１回（H30.6/24）

サークル活動後に一息（R1.1/6）

ボードゲームを楽しみながら（R2.1/5）

コウミンカンマーケットにて（R2.2/16）

＜関係者のコメント＞

コーヒーは、ただの飲み物では片付けられないほどの「安らぎ」を与えてくれて、さらに「人のつながり」を創り出す不思議な飲み物だと思います。

コウミンカンカフェでは、従来の公民館の発信に加えて、SNS などを使って広報してきました。SNS でのお知らせを見て、市内在住の方が淹れ方講習に参加してくださったり、都内からコーヒー好きな方がわざわざ飲みに来てくださったり、もちろん水谷地区に住む人も含めて素敵な出会いが、数多く生まれています。このつながりを広げながら、長く続けていくためには、課題も多くあります。地域の力を結集して、コウミンカンカフェが水谷地区だけでなく、富士見市に、社会になくてはならない場所になっていくことを願っています。

（４）水谷東公民館

公民館・事業名	水谷東公民館・「水谷東イエローカフェ」
主催・協力	水谷東地区公運審、水谷東公民館・公民館利用者

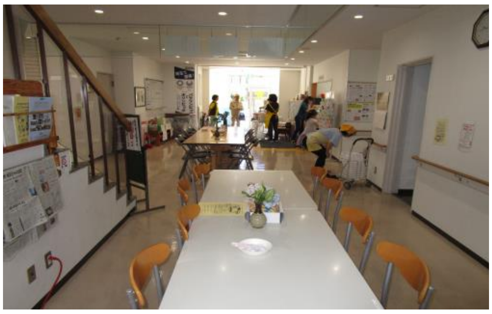
概要

○関根委員の発案による公民館カフェを水谷東公民館として実施。
「幸せの黄色いハンカチ」から黄色（イエロー）をシンボルカラーとし、「水谷東イエローカフェ」とした。
○周知方法：公民館だより、ポスター掲示、チラシ回覧（地域の４町会）
○スタッフは全員、イエローカフェにちなんで、黄色のバンダナ、エプロン等を着けた。
○コーヒー（ドリップ）と菓子をサービスし、希望者には麦茶等を出した。
○喫茶店の雰囲気を出すため、ＢＧＭ（ジャズ）を流した。
○次年度については、引き続き公民館、地区公運審委員との共催とし、季節毎に１回行い（全４回予定)、第１回目を５月 17 日（日）とした。

実施状況

✧第１回　日　時：令和元年６月 16 日（日）　10:00～13:00
会　場：水谷東公民館玄関ホール、ロビー
参加者：80 名　カンパ金 18,450 円

・オープンとともに満席となり、市長、教育長、議長が公務の移動中に立ち寄った。
スタッフ：公運審委員（本田、田中、會津）
公民館（山﨑、大日方、荒井）



✧第２回　日　時：令和元年 11 月 30 日（土）10:00～13:00
会　場：水谷東公民館玄関ホール、ロビー
参加者：64 名　カンパ金 10,300 円

・11 時オープン予定だったが、来館者もいて準備が整ったため、10 時から始めた。前回に比べ、参加者は少なかったが、次回の開催を望む声が多かった。なお、今回、公民館利用者の平井氏がスタッフとして参加してくれた。
スタッフ：公運審委員（本田、田中、會津）　協力者（平井）
公民館（山﨑、大日方、荒井）

✧第３回目を３月７日に実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため中止となった。

関係者のコメント

＜本田 和子 公運審委員＞

公民館カフェのお話しを聞いた時はどうなることやら・・・1回目は豆を何種類か選び使用することでロビーはとてもいい香りで、多くの方が飲みに来てくださり、とても賑わっていました。2回目は新たなスタッフも加わり、公民館利用者が楽しい時間を過ごしていました。これからも地域の方々が気軽に足を運び、コーヒーを飲みながらの会話や、ゆっくりくつろげる空間として幅広い世代の方に「イエローカフェ」を利用して頂ければと思っています。

＜田中 洋子 公運審委員＞

イエローカフェは、公民館利用者や地域の人たちの憩いの場所だと思います。美味しいコーヒーを飲んでもらうため、前日に味見したり、カップ等の用意をして準備万端で当日を迎えました。

当日はＢＧＭが心地よく流れる中で淹れたてのコーヒーを飲みながら、皆さん楽しそうに会話も弾んでいました。そんな光景を見ていると嬉しくなり、公民館カフェとしてのやりがいを感じました。

これからも公民館をコーヒーの香りでいっぱいにして、皆さんに憩いの場所を提供していきたいと思います。

＜會津 貞子 公運審委員＞

1回目は、すべて試行錯誤の一日でした。

開店と同時に思いがけず大勢お客様が来て下さり、コーヒーを淹れるのに手間取りました。いつも会わないグループの方々との出会いや、久しぶりに会った方々が歓談していて大変嬉しい眺めでした。ゆったりとした会場作りやジャズのＢＧＭと雰囲気は上々でした。「今度はいつやるの？」と次回の開店を楽しみにしてくれている友人も多いです。コーヒーは産地別で淹れていましたが、途中ブレンドになったようで、通のお客様から「何処の豆か」と聞かれました。次は産地別も良いかなと思いました。

＜藤井 文則 公運審委員＞

地域コミュティの新しい形として、高齢者から子育て世代まで、異年齢の交流のきっかけになる取り組みであり、地域の方だけではなく、その友人、知人にも参加の輪が広がるなど公民館を中心に人と人とのネットワークが広がる可能性がある事業だと思います。また、公民館で活動するサークル等にむけて、発表や展示の場として提供するなどのコラボも考えられます。地域文化の発信基地的な事業として、さらなる発展を期待します。

＜平井 光夫 公民館利用者・元公運審委員＞

第２回目の『イエローカフェ』に誘われてスタッフとして参加しました。開店して間もなく公民館のロビーは、今まで見たことのない風景となってきて、それぞれのテーブルでコーヒーを飲みながら話も弾んでいるようでした。

モダンジャズが流れ、コーヒーの薫りも満ちているなか、ひと時を過ごす事が出来る場所『イエローカフェ』は、何としても続けて行けるよう、関係者みんなで工夫をし、このような催しがあることを広めて行ければと思いました。長く続くように。

３．まとめ　「公民館カフェ」の可能性

＜関根 健一 水谷地区公運審委員＞

公民館カフェ事業の構想を思い立ち、公民館運営審議会で相談し、公民館職員、委員の協力を得て、紆余曲折あった中で実現の日の目を見ました。その後は、市内公民館でのカフェ事業の展開へと繋がりましたが、その詳細については、各公民館からの報告をご覧いただいたことと思います。

算数の数直線において 0 から 1、1 から 2、2 から 3、全て等しく「1」の価値しかありません。しかし、人生においては、0 から 1 とそれ以外の数字は決して等しくありません。公民館カフェ事業の立ち上げを振り返る時に、そんな事が浮かんできました。最初の「1」を立ち上げることは確かに労力が要ります。しかし、一度その姿を現実のものとして見てもらえれば、周囲の人たちは案外すんなりと腰を上げてくれるものです。自動車の 1 速が一番パワーを使うけど、高速になれば燃料の消費が少なくなるように、エアコンをつけた直後が一番電力を使い、つけっぱなしにしておいた方が効率的であるように、動き出したパワーをいかに効率よく未来につなげていけるかだと思います。

そのために、水谷公民館での活動は「コウミンカンビアガーデン」「コウミンカンリノベーション」「コウミンカンマーケット」と展開してきました。
すべての公民館が同じ事業をやる必要はないと思いますが、公民館カフェ事業を通じて集まった地域の仲間が、楽しみながら地域のために行動を起こす。そんな連鎖の発起点に公民館カフェ事業がなっていくことに期待しています。

時代は折しも新型コロナウイルスの影響で大きな分岐点を迎え、自粛生活が進む中で「地域の連携」「生涯学習の大切さ」が浮き彫りになりました。これからの時代を豊かにするヒントが、公民館には詰まっていると思います。

是非とも、公民館カフェ事業を富士見市の生涯学習のハブとして、豊かな地域づくりに活用していきたいと思います。